

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4671000240
法人名	医療法人 世光会
事業所名	千寿園ケアホーム
訪問調査日	平成21年4月30日
評価確定日	平成21年5月30日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4671000240
法人名	医療法人 世光会
事業所名	千寿園ケアホーム
所在地	指宿市十町2325番地 (電 話) 0993-24-3300
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(平成21年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成12年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	6人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.6人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,680円

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 88歳	最低	76歳	最高	97歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	伊藤病院 宮崎歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道に面したこのホームは交通の便がよく、公園やスーパー、消防署などが近くにあり、生活の利便性が高い。管理者は、常に利用者を中心としたケアを心がけており、利用者で構成される「しあわせ会」を開催するなどして思いの把握に努めている。さらに、地元の老人会への参加や清掃活動など、地域との交流も意識しながらケアを行っており、認知症ケアの啓発活動にも力を入れている。ホーム内は温かい笑顔にあふれており、利用者は職員を信頼して幸せを感じながら暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、職員会議において全項目について話し合わせ、最終的に管理者がまとめたものを職員が確認している。前回の外部評価での改善項目はなかったが、自ら課題を見つけて改善するように話し合いが持たれ、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、活動報告や職員の研修参加状況、自己評価や改善点等について、資料を準備して分かりやすい報告がなされている。また、参加者からの意見も活発に出されており、職員ばかりではなく、参加者全員が良質のホームづくりのために積極的に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族からの意見や要望、苦情については、いつでも気軽に出していただけるように面会時に声掛けをしている。また、遠方のご家族に対しても、手紙で意見をもらうようにしている。表出された意見や要望、苦情については、職員会議で直ちに話し合い、対策が検討されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民との関係を積極的に持つように、地域の行事や活動に参加したり、子供神輿や湯豊太鼓の慰問を受け入れたりしている。また、ホーム自ら地域の方々の役に立ちたいという思いを持って、月に1回、地域の清掃活動を行っている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域との関係および役割を意識した独自の理念がつくられている。また、職員と利用者が一緒に「笑顔、元気、長生き」という家訓をつくり、ホーム内に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議や申し送り時に理念を確認し、自らのケアについて理念に即して提供できているか振り返りを行っている。管理者は、特に「利用者中心のケア」に力を入れて、職員への指導を徹底している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民との関係を積極的に持つように、地元の行事や活動に参加したり、子供神輿や湯豊太鼓の慰問を受け入れたりしている。また、ホーム自ら地域の方々の役に立ちたいという思いを持って、月に1回、地域の清掃活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、職員会議において全項目について話し合わせ、最終的に管理者がまとめたものを職員が確認している。前回の外部評価での改善項目はなかったが、自ら課題を見つけて改善するように話し合いが持たれ、全職員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催され、活動報告や職員の研修参加状況、自己評価や改善点等について、資料を準備して分かりやすい報告がなされている。また、参加者からの意見も活発に出されており、職員ばかりではなく、参加者全員が良質のホームづくりのために積極的に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の前後に、市担当者等と利用者とのお茶会を設けたり、ホーム内の見学をしていただいたりと、積極的にホームの現状について理解していただくように働きかけている。また、市の担当部署を訪れて、相談や助言を受けることも多い。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては、ご家族の面会時にその都度報告しており、健康面については、かかりつけ医より健康状態や検査結果等を書面で受け、定期的に報告している。遠方のご家族に対しては、個別の暮らしぶりや健康状態などをまとめたものを郵送し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望、苦情については、いつでも気軽に出していただけるように面会時に声掛けをしている。また、遠方のご家族に対しても、手紙で意見をもらうようにしている。表出された意見や要望、苦情については、職員会議で直ちに話し合い、対策が検討されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に対する影響を考慮して、職員の離職が最小限に留まるように働きやすい職場づくりを目指しており、個人面接や研修機会を多く持つように配慮している。現在、法人内での異動はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に研修希望の聞き取りをしており、それを基に、それぞれの能力や経験に応じた研修を受講できるように計画を立てている。研修機会が多く、職員は参加に積極的である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域のグループホーム連絡協議会の役員として幅広く活動しており、他ホームと行き来できる関係を築いている。職員同士の相互訪問も行い、他のホームで参考になった点はすぐに導入してサービスの質向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居予定者の環境的要素や身体状況に応じて、入居前に日中だけの利用を体験してもらいながら、徐々に馴染めるように配慮している。また、待機者についても、いつでも遊びにきていただくように声掛けしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者が特に注意して職員へ指導していることの中に、「～させる」という表現を使用しないということがあり、日頃より、「介護をする一される」という関係とならないように意識付けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のケアの中での気づきや、直接会話を通してうかがった言葉等については、すぐ記録に残しておくようにしている。なかなか希望が出せないなど困難な場合は、幾つかの選択肢を挙げて意見を聞いたり、表情やしぐさから判断するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常のケアでの気づきや意見については、介護援助記録に記録されており、その内容を介護計画に反映させ立案されている。また、職員会議においても、それぞれの職員から介護計画に対する意見を出してもらい、話し合いがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングで目標に対する達成度の確認がなされ、6ヶ月ごとに定期的な計画見直しが行われている。また、状態変化があった場合などは、その都度必要に応じて見直され、現状に即した新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り利用者の希望に添えるように、教会や美容室への送迎介助や病院への受診介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望を尊重したかかりつけ医となっており、ために状態報告を行うことで信頼関係を築くように努めている。また、パンフレットを配布して、ホームへの理解と協力をお願いしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取りの指針について説明すると共に、看取りに関する希望を聞き取って記録している。その後は、毎年利用者の誕生月に希望の確認を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者が傷つくような言葉使いや態度で接しないように、常に職員間でチェックするようしており、職員会議でも、頻回に確認がなされている。個人情報については指針を定めており、記録類は事務所内の目の届かない場所に保管するなど、適切に取り扱っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れとしては、基本的な行動時間が設定されているが、起床や就寝、食事等の時間については、できるだけ利用者の希望やこれまでの習慣に合わせて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が参加しての給食会議を年2回開催しており、利用者の希望や好みの聞き取り、調理法の検討などが行われている。食事の準備と片付けには利用者が主体的に参加して、それぞれの力を発揮しながら取り組まれ、職員は補助的に支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は16時から18時に行われており、毎日でも入浴できる体制となっている。汚染等により必要がある場合は、その都度シャワー浴ができるように対応している。入浴嫌いの方に対しては、声かけや湯温、介助の方法等を工夫することで気持ち良く入っていただけるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なことや以前の職業等から、その方が喜んで取り組める役割を見つけて、そのことが活かせる場面づくりを行っている。また、希望に応じてのドライブやカラオケ、日光浴など、楽しみごとや気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節に応じた花見ドライブや、弁当を持参しての公園への外出などを行事に取り入れている。日常的には、近所のスーパーへ買い物に出かけたり、庭での日向ぼっこや散歩など、毎日希望に沿って戸外に出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は開いた状態となっている。外出傾向にある方については状況に合わせた対応を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者やご家族の了承のもと、出入りの分かるセンサーを設置しているが、常時スイッチを入れることはなく、利用者の状況に応じて使用している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、避難訓練を実施しており、うち2回は夜間想定で行っている。訓練には、近隣住民の参加もあり、協力関係が築かれている。地域の状況を考え、風水害時を想定した訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量については、介護援助記録に記録されている。水分量は1日1500mlを目安として、利用者のコップで何杯飲用したかを確認している。献立については、法人の管理栄養士が作成しており、必要に応じて相談し助言を受けている。給食会議の結果は、毎日の食事に反映されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりと過ごせる共用スペースが、2ヶ所設けられている。利用者が月毎に共同制作したジャンボカレンダーが掲示しており、花々や折り紙、習字なども飾られ、季節を感じながら穏やかに過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者およびご家族に、馴染みの物を持ち込んでいただくようにお話することに加えて、本人の状態に合わせて、どのような家具や装飾品が良いかについて提案することで、それぞれの個性に合った居室となっている。		